

コミュニティ心理学の視点から見たソーシャルワーカーの業務とは
— 先行研究に関する内容分析手法の結果からの考察 —

○ まるもとケアプランセンター ケアマネージャー 杉田 貴行 (008282)

キーワード：コミュニティ心理学、ソーシャルワーカー、内容分析手法

1. 研究目的

社会生活上の困難な状態にある利用者へのソーシャルワーカーの業務は、病気や障害などによって生活に問題を抱える利用者に対して、支援を実践することである。支援とは医療や介護・福祉に関する相談・援助・調整などをいう。その業務において、地域の状況に応じた他の対人援助専門職との連携が求められる。また、他の対人援助専門職や地域社会のさまざまな人々との協働においてこそ、支援を展開することが可能である。

本報告はソーシャルワーカーの実践する危機介入、コンサルテーション、社会的支援とそのネットワーク形成、課題調査の手段など、その業務が、コミュニティ心理学との関係において、具体的にどのような状況なのかを検討したものである。

2. 研究の視点および方法

本報告では、J-Stage の検索機能を用い「ソーシャルワーカーAND コミュニティ心理学」という言葉で先行研究を全文検索し 59 件が該当した。そして、大会報告や書評などを除く 44 件の論文を対象とした。次に分析方法としては、Berelson や Krippendorff の内容分析等を参考に、内容分析手法にて、展開されているソーシャルワーカーの業務について、コミュニティ心理学との関係から言及した、先行研究の記述内容について文脈を単位として抽出した。そして、それぞれの文脈にラベルをつけた。さらに、それらのラベルの類似したもの同士にまとめ、分類化を実施しそれらに名前をつけた。その結果、分析に当たっては、トライアングレーションとして、居宅介護支援事業所の他のケアマネージャーや介護職の意見も参考にし、分類に関して意見を求めた上で一部修正を行ってカテゴリー化を試みた。

最終的に、44 件の先行研究の記述内容を文脈単位で整理した結果、コミュニティ心理学との関係において、地域におけるソーシャルワーカーの業務に直接言及していると思われる記述内容に関して整理し検討した。

3. 倫理的配慮

本研究は公刊された論文をデータとして引用することにより調査を実施したものである。記事に関しては日本社会福祉学会研究倫理規程を遵守した。

4. 研究結果

結果を整理したところ、コミュニティ心理学との関係におけるソーシャルワーカーの業務として5つのカテゴリー領域が顕在化し、「A：連携・連絡、ネットワーク構築（該当個数 27 <重複該当あり>、以下数字のみ）」「B：知識・技術、コンサルテーション（26）」「C：エン

パワメント、ストレングス、イネイブリング (10)」「D：司法・制度 (10)」「E：社会資源 (6)」などが創出された。また、Aのカテゴリーからは、リーダー、アドミニストレーター、マネージャー、プロモーター、スーパーバイザー、ファシリテーターなど（顕在化した役割・機能の個数 8<重複該当あり>、以下数字のみ）が、Bからは、スーパーバイザー、ティーチャー、アドミニストレーター、コーディネーター、コンサルタントなど (10) が、Cからは、イントロスペクショニスト、リフレクター、ティーチャー、テスター、コーディネーターなど (9) が、Dからは、スーパーバイザー、アドミニストレーター、コーディネーター、コンサルタントなど (9)、Eからは、プロモーター、デベロッパー、アドミニストレーター、コーディネーター、プロキュアラー (8) などの機能・役割も顕在化した。

また本報告は、すでに述べた 44 件の先行研究の内容を分析したものであるが、具体例を紹介することとしたい。例えば、星野他(コミュニティ心理学研究 2002 年 5 巻 2 号 pp.124-142 p.131 文献 11)は「私どもの施設は、何年か前から必要性を感じてファミリーソーシャルワーカー、これは国の基準には何も無いのですが、ファミリーソーシャルワーカーを採用してその仕事をしたり、24 時間の電話相談をしたりネットワークを作ったり、本来は児童相談所やその立場の方がやるべきことを施設の方がやらなければいけない、必要に応じてその体制は整えているわけです」と述べている。

5. 考察

本報告から、ソーシャルワーカーの業務とは、病気や障害などが原因で社会生活が困難な状況にある利用者やその家族に対して、解決の契機となる相談支援を実践することが認識された。ソーシャルワーカーは、利用者の話を傾聴し、ニーズを聞き取り、利用者の自立した社会生活の構築に向けて支援する。また、身体的・精神的・経済的に悩んでいる人の相談を受け、日常生活が行えるよう支援をするソーシャルワーカーは、他領域の対人援助専門職と連携や協働して、多角的な視点で対応していることも見て取れた。生活全体に焦点を当て、特定の問題のみに焦点を当てるのではなく、地域での社会生活に注目し、地域がソーシャルワーカーの業務の場であることも理解された。地域と利用者の一体的支援を展開することで、システムとして全体的変化を促進するのである。

コミュニティ心理学との関係でソーシャルワーカーの業務を見た場合、利用者との関係性の構築が類似していることが分かる。本人と環境、地域との相互作用を促し、環境に対する変化をもたらすように支援を実践していく。ソーシャルワーカーは利用者を、制度や社会資源を有効活用して支援を実践して、関係機関との連絡・調整の役割を果たしていることも理解された。

本報告から、ソーシャルワーカーの業務においては、社会福祉学と心理学の両視点からの対人援助実践を修得し、専門性を高めていく必要性が示唆された。心理学の知識を持つ社会福祉学的視点で、心の通じる支援が展開できる対人援助専門職として、支援を受ける利用者の抱える問題の解決に向け取り組む姿勢の堅持が大切であることも見て取れた。そして、ソーシャルワーカーは、利用者が生活する場を社会的拠点として、利用者と彼らを取り巻く環境を対象として、一体的に支援を展開することが求められていることも認識された。